

札幌市立山の手小学校の4年生 電気と電波の役割を学ぼう！ 無線で約20局と交信 モールス信号も体験

2026年1月27日（火）

1月27日、札幌・西区の山の手小学校で、電気と電波の仕組みを学ぶ出前授業が行われました。講師は日本アマチュア無線連盟 石狩後志支部長を務める経理財務部の岡田壮弘副部長と、第一級陸上無線技術士の資格を持つ森唯菜アナウンサーが務めました。

授業は「生活で活躍する電気と電波～情報通信の役割としくみ～」というテーマで進められ、札幌で初めて電気が使われた歴史や、テレビ・ラジオ放送が届く仕組みが詳しく紹介されたほか、休み時間には短い信号と長い信号を組み合わせて文字を伝える「モールス信号」の体験も行われました。

さらに、アマチュア無線を使って、児童の声がどこまで届くか実験し、札幌市内のはか、三笠や小樽、札幌市内など道内各地の無線局約20局と繋がるたびに児童の歓声が上がりました。岡田副部長は「これを機に、身の回りにある電気や電波に親しみを持ってもらえれば」と話しています。

